

# このまちを守る 市消防団388人の精鋭たち

私たちのまちの安全・安心を守りたいという強い思いで活動する消防団員にスポットを当てました。  
いつ起こるか分からない災害には、日頃の準備が必要です。消防団員の話をもとに防災について考えて  
みませんか。

図 危機管理室





平成 30 年 7 月豪雨の被害（広島県東広島市）

## 近い将来予想される 大規模災害

30年以内に南海トラフを震源にマグニチュード8、9級の大地震が70、80%の確率で発生することが予想されています。災害は人や場所、時間を選びません。今回の大阪北部地震で改めて地震の怖さを身をもって

6月18日、大阪府北部を震源としてマグニチュード6.1の地震が発生し、府内では死者4人を始め、多くの負傷者が出ました。また、家屋の被害、停電・水道・ガスなどのライフラインや公共交通機関の停止など、都市機能に大きな影響を与えました。7月初旬には、西日本を中心に記録的な豪雨となり、寝屋川市でも、避難勧告が発令されました。広島県、岡山県など、大きな被害が出た地域では、今なお大きな傷跡が残っています。

## 自助・共助・公助



家屋の被害を調査する市職員（大阪北部地震）

理解した人も多いのではないのでしょうか。「もしものとき」を他人事だと思わないことが大切です。

「自助」とは、自分の身は自分で守ること。災害が発生したときに、災害の規模が大きいほど、行政が行う「公助」では限界があります。そんなとき、地域で力を合わせて助け合う「共助」が大切であると言われるっており、寝屋川市には、災害時に頼りになる消防団員が多くいます。

## 地域を守る消防団

消防団は、地域の消防防災のリーダーとして、地域に密着し、住民の安全安心を守るという重要な役割を担っています。

消防団員は、非常勤特別職の地方公務員であり、普段はそれぞれの仕事を持ちながら、いざというときに災害の現場に駆け付けます。全国的に消防団員数は減少傾向にあり、高齢化も進んでいます。

市消防団は、6分団（第1北・第1南・第2・第3・第4・第5分団）388人（男性375人、女性13人）の消防団員で組織され、もしものときに備え、訓練を続けています（無償的活動）。

災害現場では、消防団員と消防職員が互いに協力し合って活動しています。普段から災害を意識した訓練を一緒に行うことで、いざ災害が起こったときに連携し、より力を発揮することができます。



# 地域の防災力を高めたい

第一南分団 内山哲治さん（副分団長）

## 災害時に活躍する消防団

副分団長を務める内山哲治さんは、15年前、自治会の人にスカウトされ、消防団に入りました。「初めはどんな活動をしているかさえ分かりませんでした。年齢も立場も違う様な人が、自分たちのまちを守りたいという強い思いで活動している。同じ目的を持った仲間がいることが心を続けました。」



強かった」といいます。

地域に密着した消防団として、住宅密集地の道筋の把握や洪水などの災害時を想定したハザードマップ、避難場所の確認には余念がありません。6月18日の大阪北部地震や平成30年7月豪雨のときは、住民の安全や家屋被害の確認、河川の水位の巡回など、多くの消防団員が地域の安全を守るため、長時間警戒活動を行いました。

## 家族と防災について話し合うことが大切

内山さんは地域を守る消防団員であると同時に、家族を守るお父さんでもあります。普段から、災害が起こった場合の心掛け、緊急時の決まり事、学校からの帰宅途中など判断が難しい状況について家族でしっかり話し合っています。「防災に、これで完璧はなし」という考えで、日常会



話から家族に大切なことを伝えていきます。

消防団の活動は、24時間いつでも出動の可能性があるため、やはり大切なのは家族の理解です。「私の場合は、独身のときから活動していたので、活動自体は当たり前になっていきます（笑）。ただ、子どもたちは、夜の出勤時だけでも不安になるようで、笑顔で『行つてきます』という心掛けているんです」

## 日頃からの備えが必ず役に立つ

災害が起こったとき、被害を少しでも小さくするために

は、普段からの心掛け、訓練が大切だと話します。「まずは災害を他人事だと考えないこと。地域の皆さんには自主防災訓練に積極的に参加していただきたいですね。それが一人一人の命を守る防災力を高めます」

内山さんの目標は、「もつと消防団の活動を知ってもらうこと、そして地域の皆さんの防災への意識が少しでも高くなること」だそうです。「子どもが大きくなったとき、消防団の父親の姿を誇りに思ってくれたらうれしいですね」と笑顔で話しました。

## 地域や家庭でできること

もし、一人のときに災害が起こっても冷静に避難行動がとれますか？災害はいつどこで発生するかわかりません。自然災害をゼロにすることはできませんが、意識を高めて事前に行動することで被害を小さくすること（減災）ができます。

自分の命、大切な家族の命を守るために、災害が発生したときに何が 필요한のか、どのように行動するのか、家族、地域などで考えてみませんか。

## 地域で互いに助け合う

災害時の被害を最小限に抑えるためには、地域の助け合い（共助）が重要です。日頃から近所の人とのコミュニケーションをとり、地域の防災訓練などに積極的に参加して災害に強い地域をつくりましょう。

災害時、避難所は、地域での生活や情報の拠点となります。地域自ら開設・運



# 消防団Ⅱ男性？ 女性消防団員も活躍中

女性消防団 中岡美穂さん（班長）

## 地域も家族も守りたい

女性消防団として活動して17年目を迎える中岡美穂さん。消防団に入るきっかけは、ある市の女性消防団がポンプ操法の全国大会で優勝したという新聞記事を見たことでした。寝屋川市が平成14年に女性消防団を立ち上げた当初、団員は5人。大阪府内でも女性消防団があるところは少なかつたといえます。

「活動を始めたころは、子どもが小さかったこともあり、大変でした」と笑います。それでも活動を続けてこれら



たのは、地域を守りたいという思い、そして子どもへの理解があったからだそうです。

中岡さんは、子どもが小さいときから「地震が起こったときの行動」を教えました。出口の確保、避難場所の確認、家族との連絡

## 女性消防団の仲間を増やしたい

方法など、家庭でルールを決めることで子どもの防災への意識は自然と強くなりました。消防団員として活躍する母の背中を見て育った子どもは今でも、「地震で電車が止まったときのために飲み物や軽食を持ち歩く」という教えを実践しているそうです。

中岡さんには、女性消防団としての活動で大切にしていることがあります。「子どもがいる女性団員も多いので、子どもの学校行事はなるべく優先してもらいます。もし、その日に消防団の活動があったら、他のメンバーで支え合っています」

消防団の活動は土・日曜日を中心に、仕事をしている団員も多くいます。「貴重な休日を消防団の活動に使うのに、『行くん嫌や』と思われては続きません。ですから、みんなでコミュニケーションをとって楽しく活動しています」

市の女性消防団員は現在13人。まだまだ仲間が足りませ

ん。「消防団Ⅱ男性と想っている市民も多いと思います。が、心肺蘇生の方法、AEDの使い方や地域の人に伝えることなど、女性にもできることがたくさんあります。『私なんでもできひんし』ではなく、まずは気軽に参加してもらえたらと思います。地域を守りたいという思いがあれば大丈夫。消防団の活動を通して仲間が増えるって悪くないですよ（笑）」

## 消防団員募集

応募・問  
危機管理室

男性も女性も消防団員を募集しています。

あなたも消防団の一員として、一緒に寝屋川市を守りませんか？



対象

市内在住で  
18歳～49歳の人

## 市公式アプリ「もっと寝屋川」で情報収集を

おおさか防災ネットと連携し、気象・地震情報、避難勧告・避難指示などの避難情報をリアルタイムでお知らせします。また、市の防災活動情報、最寄りの避難所を確認することができます。「もしものとき」のために事前に確認し、いつ起こるか分からない災害に備えましょう。

QRコードを読み取ってインストールできます



iOS  
(iPhone)用



Android用

用ができる体制をつくるための実践訓練も行われます。